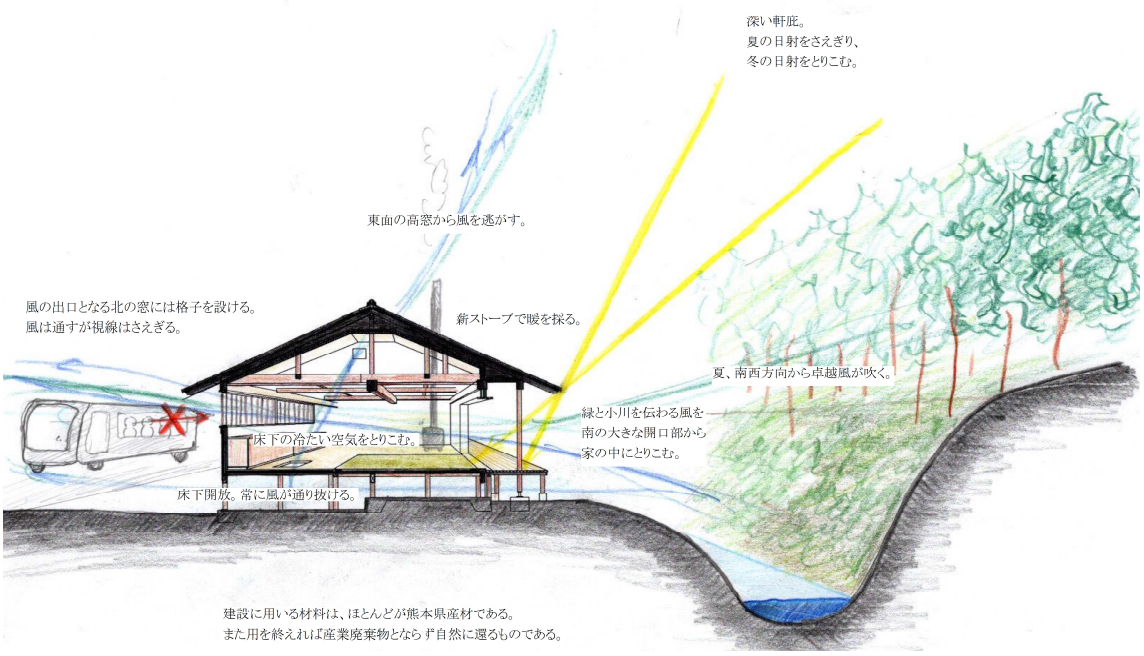
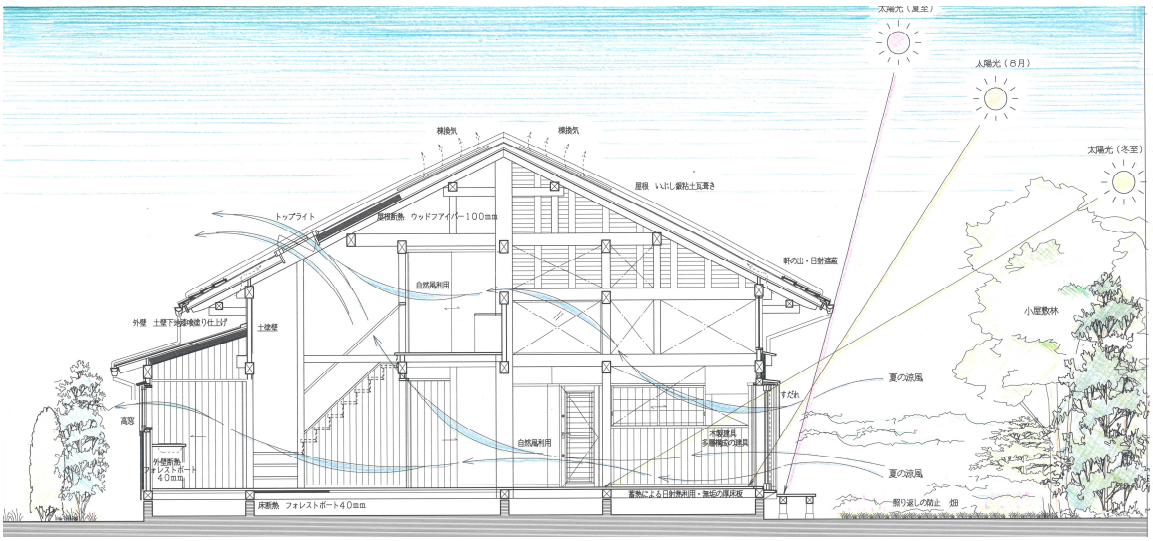
別紙１

令和元年度サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）第２回採択プロジェクトの提案概要

<table>
<tr><td rowspan="3">2</td><td>風のとおり道</td><td>すまい塾古川設計室(有)</td></tr>
<tr><td colspan="2">建築の構造として、伝統構法の石場建てづくりとした。主に土壁、差鴨居、足固めで軸組を構成し、塗壁や厚板張りにより耐震性を確保している。建設材料は、屋根瓦と設備機器以外はほとんど熊本県産材とした。また、用が終わってからも産業廃棄物にならない材料を選択した。伝統構法＋造作家具、地元の自然素材＋職人による家づくりは、その地域で建物の維持管理を行いながら技術を継承していくシステムである。</td></tr>
<tr><td colspan="2"> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2</td><td>流山の四季を楽しむ農家</td><td>（株）シティ環境建築設計</td></tr>
<tr><td colspan="2">農村的な景観の記憶を引き継ぎ、車庫・物置を長屋門形式でまとめ、主屋周辺に畑と緑地を広く配した。小規模屋敷林の復元をめざした。長寿命の家づくりに必要な維持管理を支える職人衆の技能の継承を図るために、手刻みと組立・和瓦葺き・土塗壁・板金等の手仕事の場とした。身の回りの素材で作り上げることを原則とし、天然乾燥の国産材・藁床藺草表畳・国産植物系断熱材で計画した。</td></tr>
<tr><td colspan="2"> 
</td></tr>
</table>